

6 林 業

項 目	作 業 内 容
	(今月の作業のポイント) ○排水施設の管理 ○豪雨後に林道や作業道を通行する際の注意点 ○危険個所の周知や管理者等への連絡 近年、線状降水帯や大型台風の発生により、記録的な大雨などが発生していることから、林業において大変重要なインフラである林道や作業道（以下、林道等という。）の管理や豪雨等の後の留意事項について解説する。
(1) 排水施設の管理について	林道等の災害発生原因の一つに、路面排水の不良、暗きょ排水や側溝の閉塞（目詰まり）がある。普段から自動車にクワなどを積んでおき、排水施設に土砂や枝葉の目詰りを見つけた際は、これを取り除き災害を未然に防止することが望ましい。   写真1 土砂が詰まった ヒューム管 写真2 土砂が詰まった側溝
(2) 豪雨後の林道等の通行について	豪雨や強風により、路肩が崩れたり倒木があったりする可能性があるため、豪雨の後には通常よりも速度を落とし路面や周囲に注意して走行する必要がある。   写真3 林道の崩れた路肩 写真4 作業道のクラック (ひび割れ)

項 目	作 業 内 容
(3) 危険個所の周知と管理者等への連絡	写真5 林道の風倒木 写真6 林道の法肩 (今にも倒れてきそうな雑木) また、多量の降雨が連続すると土砂が多量の水分を含み不安定な状態になりやすいことから、切取り高が高い箇所や流れ盤、風化が進んだのり面などでは崩壊や落石に注意が必要である。 写真7 “流れ盤” ののり面 写真8 風化が進んだのり面 林道等の危険な個所を発見した場合は、よく目立つテープなどで目印をつけ、他の利用者に注意喚起することが望ましい。 また、必要に応じて、森林組合や市町役場等に状況を報告し、林道等が良好な状態で維持できるようにすることが重要である。

(作成 林業研究センター)